

みたけ夢だより

11月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

豊かな心に

校長 長尾 晴美

今年は、秋の長雨の合間を縫っての運動会でした。運動会前日の体育館では、雨雲を吹き飛ばすかの様に、ペア学年同士で演技を見せ合う元気な姿がありました。自分たちの演技を見てもらい、感想を言ってもらうことで、気持ちが本番へ向かって高まっている感じでした。演技をする姿から、かっこよさ、力強さ、しなやかさ、ダイナミックさ、そして何よりこれまでがんばってきた意気込みを目の前で感じ取り合った子どもたちの姿から、演技を見合う体験がどれほど心を耕してくれるかがわかるようでした。



毎年ペア学年の6年生が運動会で踊る姿を初めて見る1年生は、「6年生になったらあのソーランを踊るんだ」というあこがれを胸に、一つずつ年を重ねていきます。4年の「エイサー」、5年の「組体操」、6年の「ソーラン」はすっかり伝統になりました。今年の6年生も本気の力を出し切ったことは、演技を終えたときに、全員が肩で大きく息をする姿、うれし泣きをする姿から伝わりました。

6年生の綴った運動会の振り返りを読ませてもらいました。一人一人の言葉から、小学校生活最後のこの運動会をどれだけ楽しみにし、どれだけ力を尽くしてきたか、そして、ソーランの練習を大切に思ってきたかが伝わりました。特にすばらしいなと思ったのは、仲間の努力する姿を見て、今の自分のままじゃいけないと、自分を奮い立たせたり、輝いている友達みたいになりたいと目標を持ったり、仲間との関わりのことがたくさん書かれていたことです。仲間同士の豊かな関わりがあったからこそ、一層達成感を感じられたのかもしれませんが。心を一つにして学年全員で創りあげるソーランへの日々そのものが、みたけ台小学校の最高学年としての伝統なのかもしれません。



当日は、ご来賓、地域の皆様、そして保護者の皆様、寒い中一杯がんばる子どもたちを最後まで応援していただきまして、本当にありがとうございました。